②【2か年度（1年目）】高機能・高付加価値コンテナの利活用に向けた社会実験（福島県猪苗代町）

1. 実験概要

- 高機能・高付加価値コンテナを道の駅「猪苗代」等に試験的に導入し、災害時と平常時の双方で利活用を図るため、同コンテナが有する災害時の機動性と平常時における「道の駅」のサービス向上、地域活性化に資する活用方法について、道の駅「猪苗代」をフィールドに検証するもの。

2. 今年度の調査内容、調査結果

①災害時活用の検証
⇒ジャッキ付多目的コンテナ、ボイラーコンテナ（入浴）、多目的シェルター（発電）の3種類を導入し、コンテナの設置、移動の簡易性や機動性を検証するため、移動や設置に係る人員、資機材、時間、作業面積の実測結果を踏まえ、その際に生じた諸課題を抽出整理。

②平常時活用の検証
⇒ジャッキ付多目的コンテナを道の駅や地域のイベント（中ノ沢こけしまつり）会場へ搬入し、物販や休憩施設として利用し、コンテナの移動、設置、利用に係る人員、資機材、時間、作業面積を実測、諸課題を抽出・整理。また、物販事業者等へヒアリング調査を実施し、実利用にあたっての諸課題等を抽出。

▼災害時検証（左：ジャッキ付多目的コンテナ・右：多目的シェルター（発電）

▼平常時検証（左：道の駅（物販）・右：こけしまつり（物販））

3. 意見と対応

有識者等からの意見	意見への対応
道の駅で高機能高付加価値コンテナを活用して災害時の対応、平常時の対応をする際の望ましい運用方法を成果とするようまとめていただきたい。	実証実験の検証結果を踏まえ、ご意見のとおり運用方針を検討する。
災害時は不確定要素が多いため、本当に災害時に活用できるのかに着目し、実用性の高い方針を作成すべき。また、導入する場合、防災道の駅は災害復旧活動の基地となるので、その基地に使える用途を検討していただきたい。	防災道の駅については道の駅猪苗代地域創生推進協議会の防災WGで議論をしている。実用性の高い方針を取りまとめるよう留意する。

②【2か年度（1年目）】高機能・高付加価値コンテナの利活用に向けた社会実験（福島県猪苗代町）

4. 次年度の社会実験メニューとその内容、スケジュール

実験メニュー	実験内容
災害時活用の検証	避難先での実利用を想定した検証を行い、平常時から災害時に転換する際の諸課題を抽出し、検証結果を基に、運用方針（案）を取りまとめる。
平常時活用の検証	宿泊施設、物販施設として、民間事業者の利用を想定した検証を行い、経営上の課題や事業の収益性について確認し、検証結果を基に、運用方針（案）をとりまとめる。

＜スケジュール＞

- 令和7年4月～ 7月　関係機関協議（防災訓練への参加調整、宿泊業許可等）
- 令和7年8月～ 9月　災害時活用の検証（防災訓練等での検証を予定）
- 令和6年9月～10月　平常時活用の検証（宿泊施設の営業検証等）
- 令和7年11月～令和8年1月　検証結果の整理、運用方針（案）の作成

▼トレーラーハウス（避難所・宿泊施設）

5. 評価

- 順調に実験が進んでいる。
- 次年度の実施内容が具体化されているため、継続して実験を行うことが妥当と考える。